

京都府下水道の未来像の検討調査

全体期間

1993. 7 ~ 1994. 3

本文 27P ~ 33P

(目的)

京都府では、平成2年1月、「第4次京都府総合開発計画」を策定し、真の豊かさと均衡ある発展を目指して各種施策の積極的な展開を進めている。その中で下水道については、都市生活の利便性、快適性を確保し、公共用水域の水質保全などうるおいのあるまちづくりを進めるうえでの基幹的な施設として普及の促進を図ってきた。

一方、地球環境問題への国際的な取り組みは大きな潮流となってきている。また、社会の状況も高齢化、高度情報化、社会経済システムの変化が急速に進み、個人の生活様式にも大きな変化が現れている。

このような下水道を取り巻く状況の変化の中で、「浸水の防除」、「生活環境の改善」、「潤いのある都市環境の形成」あるいは「清らかな水環境の保全・創造」、「下水道の持つ資源の有効利用」等への取り組み、さらには省エネルギー・リサイクル型対応の下水道システム形成等地球環境の保全への積極的な取り組みが求められている。

また、府域の多くの市町村において普及促進の建設段階にある下水道は、21世紀に入り、本格的維持管理の時代を迎えることになるため、維持管理システムの効率化、共同化の推進、財政的基盤の整備等への取り組みを進めて行く必要がある。

こうした背景から京都府では、21世紀における下水道のあり方、その実現のため展開すべき施策の指針を得ることを目的として、「京都府未来下水道計画」を策定することとなった。本研究は、このような状況を受けて、京都府における21世紀に向けた下水道の新しい可能性について多角的な検討をおこなったものである。

(結果)

未来下水道計画の愛称を「一澄みずみ京都府— いろはプロジェクト 21」とした。「澄みずみ京都府」は、「澄んだ水を地域と暮らしのすみずみまで」という意味をこめたものであり、計画の大きな目標を表現している。また、「いろは プロジェクト 21」は、「澄みずみ京都府」を実現するための計画の総体を示すものであり、その愛称は「21世紀にあたって、未来の下水道を“いろは”に還って考える」という意味をこめたものである。

本計画においては、21世紀のうるおいのある豊かな京都府社会の形成に向けて、以下の3つの調和(和)を基本理念とした。

「府民と下水道の和」

「地域と下水道の和」

「環境と下水道の和」

これらの3つの和を創出するために、まず、それぞれの和の目指す目標を設定し、それを基にそれぞれの「和」について下水道事業の3つの基本方針を設定した。

また、これらの基本方針に基づき下水道が展開してゆく基本的な事業メニューを以下のように提案した。

- | | |
|--------------|----------------|
| ① 下水道の普及促進 | ⑥ クリーンエネルギー創造 |
| ② 事業PR | ⑦ 雨水対策の促進 |
| ③ 高度処理の導入 | ⑧ 広域汚泥処理・资源化利用 |
| ④ 処理水の有効活用 | ⑨ 維持管理・事業運営 |
| ⑤ 下水道施設の有効活用 | |

研究担当者：佐藤 和明，村上 孝雄，深尾 忠司
(前任者：村上 忠弘)

キーワード

京都府，未来下水道計画